



琵琶湖工事事務所

瀬田川改修100周年記念事業スタート

住民有志の「リパブレ隊」が、ともに学び、遊んで、瀬田川市民ネットワークを構築し、次代の瀬田川を考えます

建設省琵琶湖工事事務所は今年、瀬田川改修100周年を記念して住民参加の多彩な事業を実施しています。

明治33年（1900）、わが国初の上下流一貫した河川計画に基づき工事を着手してから100年。しかし、その以前、古く奈良時代から瀬田川の改修は湖岸の人々の大きな課題でした。特に新田開発ブームに湧いた江戸時代以降、降雨量が急増すると浸水する地域も拡大、農業だけでなく生活も脅かされる湖岸民にとって瀬田川の改修は悲願でした。私たちの地域はどのような被害や苦しみを受け、どんな対策をとってきたのか……。改修にまつわる歴史を知り、これからの瀬田川づくりをともに考えようというのが記念事業の主旨。瀬田川改修に学ぶ・コミュニケーションでひろく未来をキャッチフレーズに展開しています。

特製「うちわ」で100周年をPR

瀬田川改修100周年をまず沿川の住民に知っていただくために8月、特製「うちわ」約3万枚を地元自治会の協力のもと配布しました。



リパブレ隊「結成」

9月9日に結成式挙行

9月9日、リパブレ隊の結成式をアーク琵琶映像ホールで行いました。

リパブレ隊とは、瀬田川について学び、遊び、体験を通じて未来を考えようと、沿川住民に参加を募りて結成したもので、下流の淀川からも参加を得て7歳から78歳まで隊員数は72人。毎月第4土曜日に体験見学会などを開催します。



結成式には72人が参加

リパブレ隊 第1回見学会、新旭町に「水害の歴史と先人の努力」を見た

リパブレ隊の活動第2弾、第1回見学会は大津市歴史博物館の杉江進さんを講師に迎え、9月23日に実施しました。生憎の大雨でしじみかき体験は「おあつけ」。明治29年の大洪水を物語る「民家のふすま」や江戸期の功労者・藤本太郎兵衛の生家、大津放水路、大津市歴史博物館を見学しました。

隊員から「学び」に積極的な意見・感想が続出、希望に沿ったテーマで見学会を計画

見学会後に実施したアンケート結果では「もっと体系的に勉強したい」などの積極的な声が多く、これらを参考に今後の活動を考えていきます。



明治29年の大洪水で水に浸かった跡が残る「ふすま」に見入る隊員



見学会の感想

「洪水被害が大きかったのは瀬田川だけと思っていました。新旭町を今回見学して、洪水被害が、琵琶湖の北の方にも及んでいたのが驚きました」と語ってくれたのは、若ア隊グループ名（の）間宮安一さん。

お問い合わせ
建設省琵琶湖工事事務所 調査課
077-546-0844(代)